

61 地産地消による、都市と農村の交流！

【き】 余っている田を生かそう！

国の減反政策で、地域の田の6割しか米がつかれなくなり、余った4割の休耕田で何をつくるかが課題でした。平成8年ごろから、有志で、国の補助金に頼らずに、人気のある作物をつくろうと、トウモロコシづくりを始めました。

【概】 郵パック&もぎとり体験

平成11年頃から、地域のみんなで取り組もうということで、自治会の活動としてトウモロコシづくりとその販売に取り組んでいます。

毎年7月中旬頃から、注文に応じて郵パックで各地にお届けしています。また、子供たちが夏休みに入り、かつもっとも雨の少ない時期である7月下旬の土日に、もぎ取り体験イベントを開催しています。これには毎年、都会から家族連れを中心に2,000人くらいの人たちが訪れてくれます。

【成】 活動を通して地域のみんなが顔を合わせる

もぎとり体験は、地域の一年に一度の大イベントになっていますので、その準備や当日の運営には、地域住民みんなが力を合わせます。それによって、これまでなかなかふれあうことがなかった異世代の人たちの交流が生まれ、育まれています。

また、都会の人をはじめとする他地域の人たちに、トウモロコシを通じて金剛山地区のことを知ってもらえたのも大きな成果です。

【夢】 一年を通して活動できるしくみをつくりたい

もぎとり体験イベントは盛況で、経済的にも黒字なのですが、やはりイベントというのは一過性のもので、レストランや道の駅などを通じて、将来的にはトウモロコシを一年中販売できるしくみを確立したいと考えています。



イベントのチラシ

金剛山休耕田に
トウモロコシを作る会

代表者氏名：岸野章吾
活動地域：金剛山地区
事務所等：揖保郡揖保川町金剛山505、
岸野文信
電話番号：0791-72-3950
FAX番号：0791-72-3950
e-mail：rinden@iris.ocn.ne.jp

ともに取り
組んだ団体等

浦部自治会

馬場自治会

近隣の浦部自治会はベニバナ、馬場自治会はコスモスを、それぞれの休耕田でつくっています。馬場のコスモス祭りに焼きとうもろこし屋を出店するなど、お互いに協力し合いながら活動に取り組んでいます。



キーワードは「体験」！都会ではできないこと

有志で試験的にトウモロコシづくりをしたとき、市場に出荷するには、有名な長野産や北海道産に比べ、かなり値を落とさないといけないということが分かりました。市場で販売する以外に、何かいい方法がないかと考えていたとき、ふと、もぎ取り体験が頭に浮かびました。

もぎ取り、つまり収穫作業は、農作業に慣れ親しんだ私たちには重労働でも、今までそれをしたことのない都会の人たちにとっては楽しい体験になるのではないかと思います。その狙いは成功し、訪れる皆さんが笑顔でもぎ取りを楽しんでくれています。



チラシを「親」にしてもらっています

もぎとり体験の宣伝は、新聞の折り込みチラシで行っています。土日の開催なので、前日の金曜日に入れてもらっています。スーパーのチラシと同じで、たとえば1週間も前に宣伝したって、読んだ方は忘れてしまいますから。

また、心やすい新聞の販売店には、もぎとり体験のチラシを「親」にしてもらっています。「親」とは広告の束を広げたときに最初に目にとまる広告のことで、他の広告に比べて少しは読者の目にとまりやすいのです。

求ム!

もぎ取り体験イベントは毎年7月下旬に実施しています。ぜひご家族でお越しください。村のみんな歓迎します。



もぎとり体験を楽しむ子どもたち

読者の皆さんへのメッセージ

スーパーで並んでいるトウモロコシと違って、生産地直販で食べるトウモロコシはまるでフルーツのようにジューシーです。一度生で食べる価値はあります。ぜひもぎとり体験で、金剛山のトウモロコシを味わってみてください。おいしいですよ。